優花
YUUKA
実録性悪③
美人上司
媚薬を
飲まされ
部下の
SEXドールに

アネ恋♀宣言

「実録性悪③　美人上司　媚薬を飲まされ部下のSEXドールに」

CONTENTS

優花

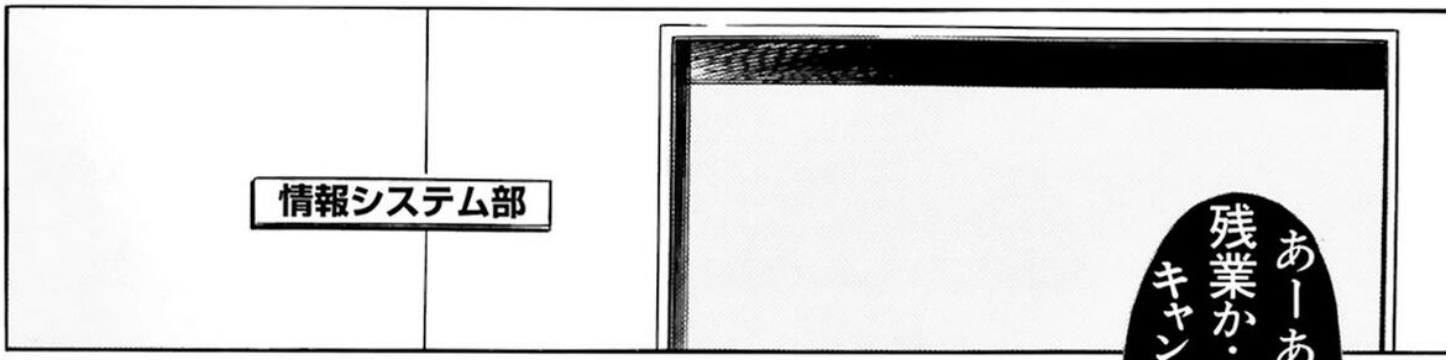
「美人上司　媚薬を飲まされ部下のＳＥＸドールに」……3

「人妻　ＤＳ女王様から真性Ｍ女に格下げ」…… 33

【本コンテンツはデジタル単行本の配信となっており、雑誌形式として編集・配信されている作品が含まれます。ご了承下さい。】

美人上司
媚薬を
飲まされ
部下の
SEXドールに

日本アムールデータ社

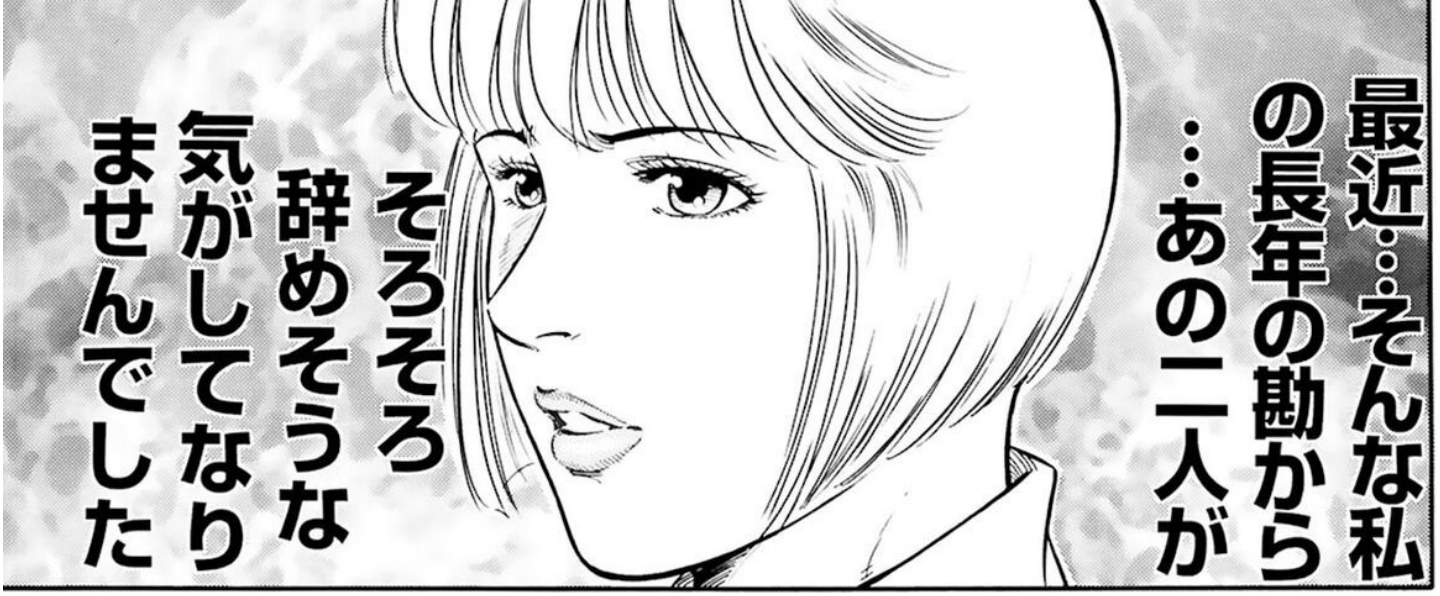

情報システム部

あーあ…今日も残業か…合コンまたキャンセルだよ…
これで何度目だ!?——ったく…忘れるほどキャンセルさせんなよォ…
あ…もしもし…予約していた小林ですけど…
あのですね…また仕事が忙しくて…
……
プロジェクトマネージャー
木村由美子31歳

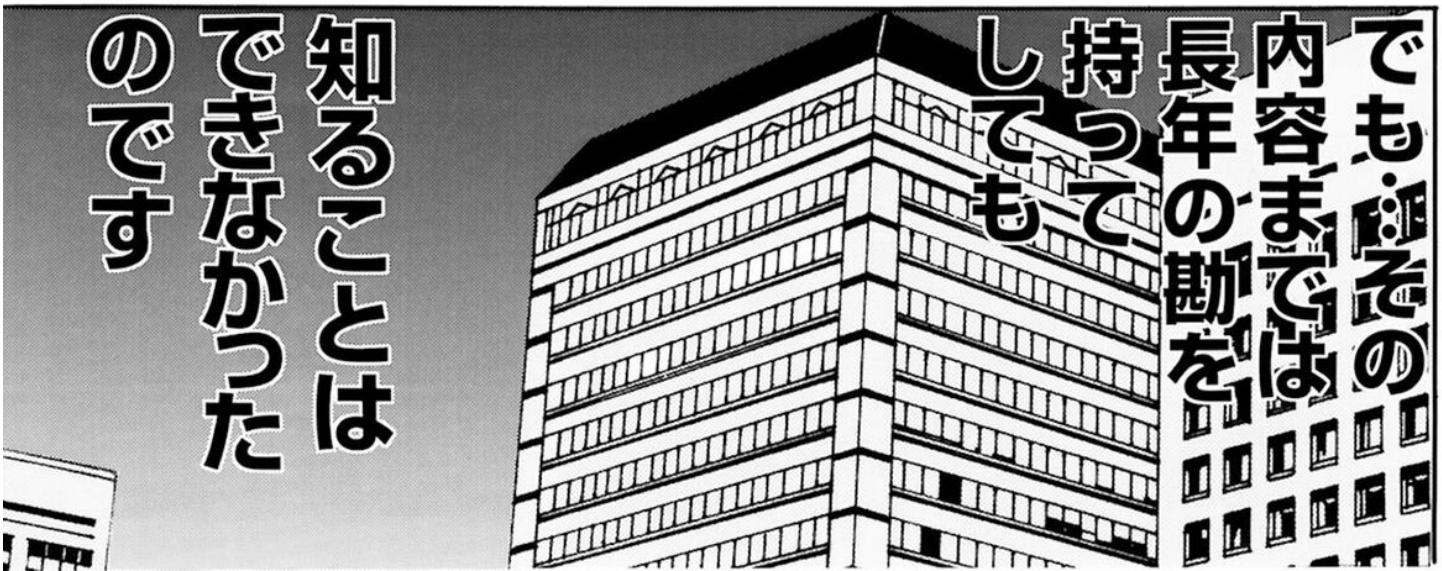
あのさ…だから残業で行けなくなったんだって…
待ってる!?泊まり込みかもしんないしなァ
え!?
ウソだろ!?違うって…本当だよ!…バカ言うなよ!会社からかけてるに決まってるだろ!?

そろそろガス抜きさせないと…仕事そのものに影響が出ちゃうわね…
ここではシステムエンジニア(SE)がチームを組んでシステムの企画・設計その運営までを行なっていて…
スヤ…
ハァ…
私はこのチーフ的立場にあるのです
まいったわね

あ…マネージャーちょっとプログラムのことで聞きたいことが…
後でいいかしら？これから会議があるのよ
マネージャーもかなり疲れてるわね…
女一人こんな責任ある立場にいるんだもの…無理もないわね
ま唯一ここのスタッフになってよかったことと言えば…
このSEという仕事は業界でもハードなことで知られていて…
美人マネージャーの尻を見られることぐらいかな
バカ…
また…あの二人…
私自身ここまでキャリアステップを歩んで来て辞めていく人達を何十人と見てきたことか…
まるで鳩首協議ね…


最近…そんな私
の長年の勘から
…あの二人が
そろそろ
辞めそうな
気がしてなり
ませんでした

暇があれば
鳩首協議の
ように
顔を突き
合わせては
何かを相談
し合っている


でも…その
内容までは
長年の勘を
持って
しても
知ることは
できなかった
のです

マネージャー
神谷君!?

今…お時間よろしいですか?ちょっと…相談したいことがあって…
何かしら?
ここじゃなんですから…静かに話せる場所へ行きませんか!?
そうね…私もあなたのことが気に掛かってたの

私は彼らに不信感を抱きながらも…

部下としてはまだ信頼していました

なるほどね…ここはめったに使われないものね…

あら？…気が効くじゃない…

マネージャーはミルク入っていた方が好きなんですよね？

そうね…ありがと…

そう…そのわざとらしい行為の真意に気付かぬほど…

――で

ゴクン…

話してなにかしら!?

実は俺…

え!?残業なしって…

情報システム部

おい田中…それって本当なのか!?

ああ…トイレから戻る途中マネージャーが急いで帰ろうとしていた所にバッタリ出くわしてさ

みんなに伝えてくれって…

急用があって帰るから…今日の残業は特別に取り消すって…

急用って何かな…

まあまあ…細かいことはいいからさ…せっかくだから帰ろうぜ！マネージャーも俺達のことちゃんと分かってくれてるってことだよ！な!?

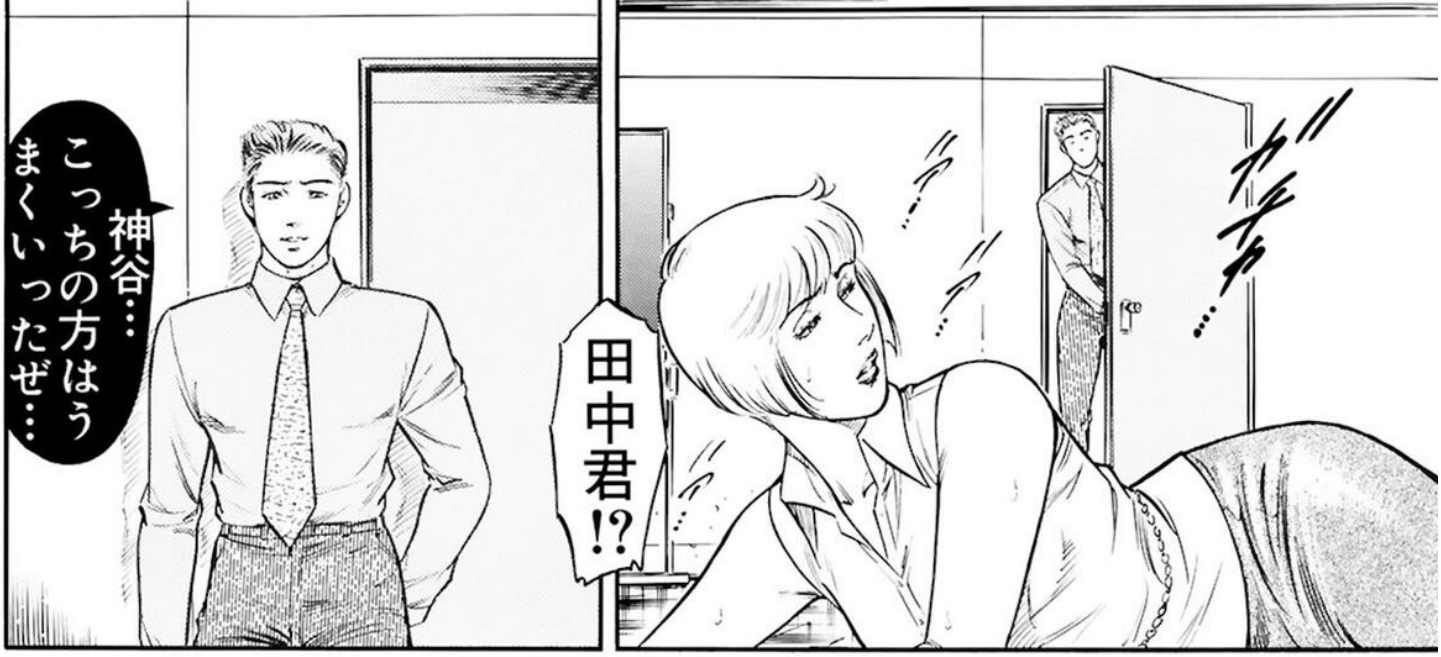
そうなんだ…これからすぐ会社出るからさ…いつものとこで♡

ヒヒヒッ…合コンまだ間に合うかもな！

……

さあさあ！帰ろうぜ!!

そう…
やっぱり辞めるの
どうしました？マネージャー
変なのよ
なんか…
こう身体が熱くて…
あ…
やだ…立てない…
イッ!!


田中君!?
神谷…こっちの方はうまくいったぜ…

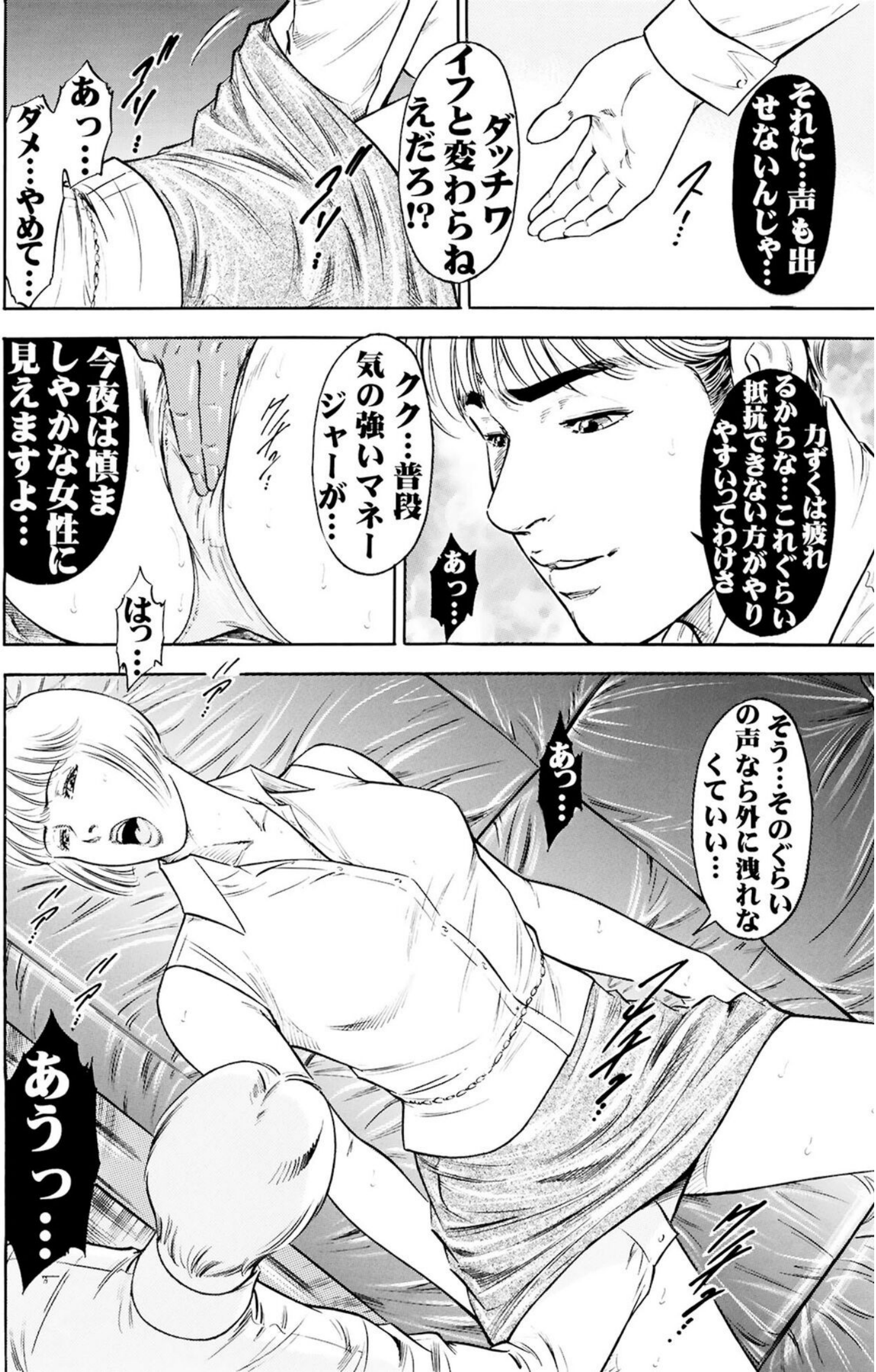
みんな残業なしって言ったとたん喜んで帰ってったよ…
だろうな…

他のオフィスでも残業してる奴はいるけどまっこの部屋はめったに使わないしばれることはまずないな…
こっちも見てのとおり…手筈通りだぜ!
え…神谷君…あなたまさかコーヒーに
なにか…入れたのね!?

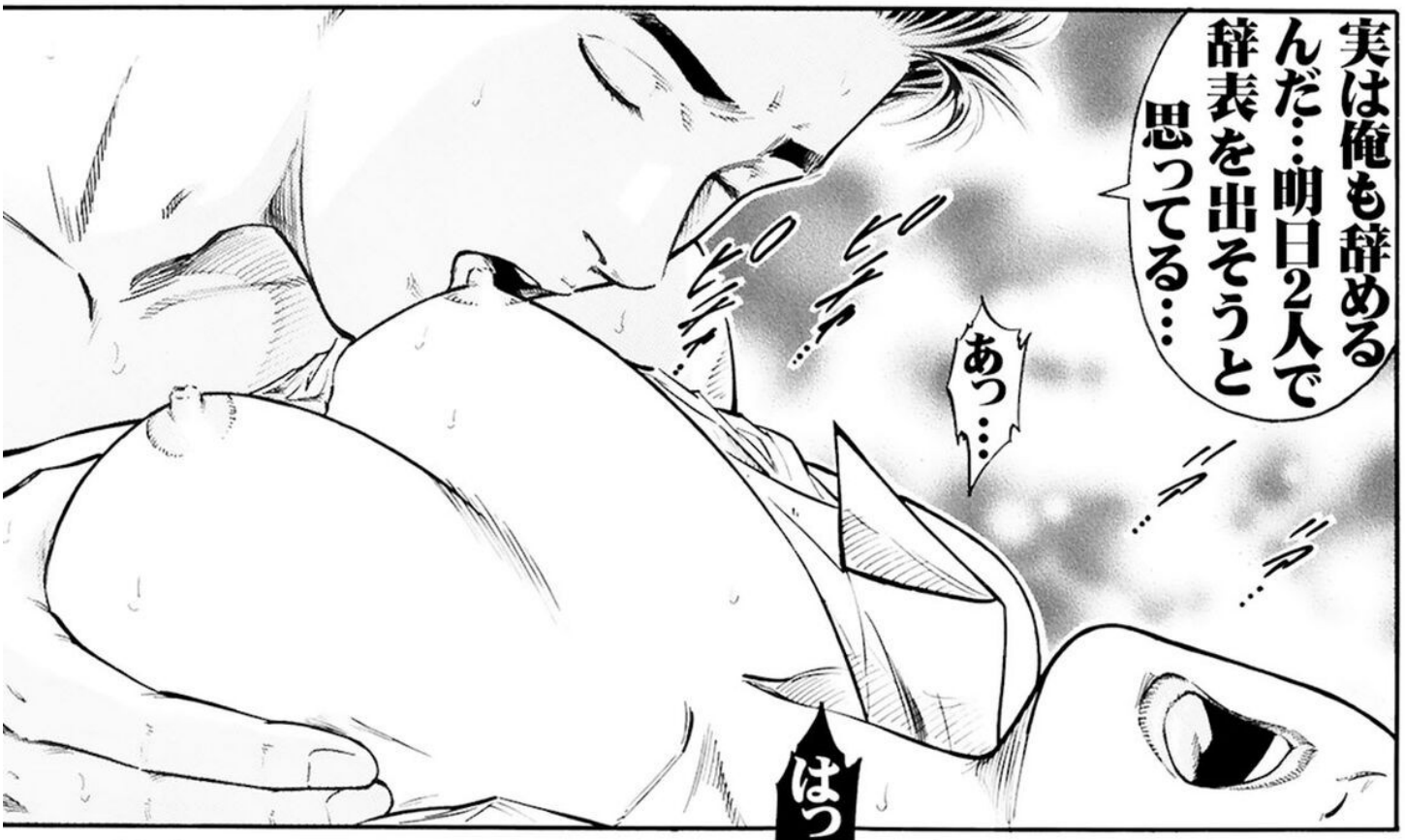
そんな心配しないでくださいよ…マネージャー
入れたのは「リキッドエックス」っていう合法ドラッグですよ
まず心臓の鼓動が高鳴って…全身の力が抜ける そしてちょっと触っただけでも敏感になる

マネージャーは体質的にこういうの弱いみたいですね 思った以上に効果が出てますよ
キャッ…
や…やめなさい！あなた達…これって犯罪よ!?分かってるの!?

声を出せないようにした方がいいんじゃないのか？効いてるとはいえ…これじゃ騒がれてばれちまうだろ!?
ばれてまずいのは俺達よりマネージャーの方さ…部下にレ○プされた上司…そのまま会社で平然と働けるか!?
クク…今まで築き上げてきたキャリアに傷をつけるようなバカな真似マネージャーはしませんよね!?
……


それに…声も出せないんじゃ…
ダッチワイフと変わらねえだろ!?
フリ…
フリ…
あっ…
ダメ…やめて…
力ずくは疲れるからな…これぐらい抵抗できない方がやりやすいってわけさ
あっ…
ク…普段気の強いマネージャーが…
今夜は慎ましやかな女性に見えますよ…
はっ…
そう…そのぐらいの声なら外に洩れなくていい…
あっ…
あうっ…

彼らは私の立場を見透かしていた…
それは無理矢理レ●プされることより屈辱的だったかもしれません
はっ…
あっ…
神谷が退職するのは聞いたろ？

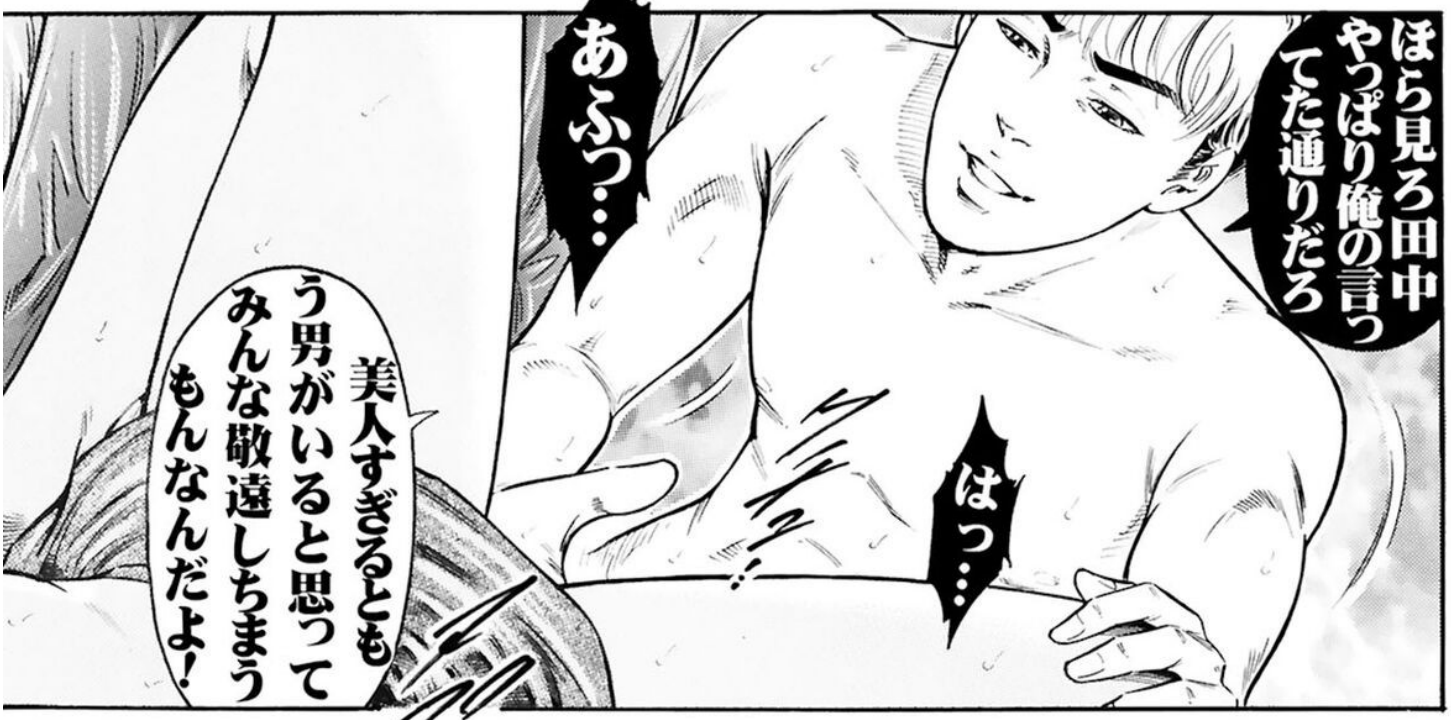

実は俺も辞めるんだ…明日2人で辞表を出そうと思ってる…
あっ…

はっ…
許してくれるよな…
辞めるからって…なにも…こんなこと…あっ…
あっ…
だから…今夜は俺達の送別会ってことで…最初で最後の無礼講
はっ…

あぐっ…
ジュポッ
グチュッ
はっ…
確かに辞めることが今回の計画のキッカケになったけど…
ヌチュッ
ぴちゃっ
ピチャッ
もし…このまま仕事を続けたとしても…
あっ…

チャンスがあればやるかも知れないな…
それだけマネージャーは女として魅力的ってことだよ…
はっ…
はっ…
情報システム部のキャリアウーマン…
はっ…
社内の噂の的なんだぜ!?入社して1年足らずの俺達にとって高嶺の花だった…

そうだ…これ聞いてみたかったんだけど…
マネージャーって当然彼氏はいるんだろ!?
そんな…付き合ってる暇なんて…あっ


ほら見ろ田中やっぱり俺の言ってた通りだろ
あふっ…
はっ…
美人すぎるともう男がいると思ってみんな敬遠しちまうもんなんだよ!

しかし…もったいないよな…こんな熟しきった身体を放っとくなんて
あっ…
よけいなお世話よ…
さてと…本腰入れて楽しもうかな…
あっ…
やっ…

合法ドラッグさまさまだな 濡れすぎて〝おもらし〟しちまったみたいだぜ マネージャー
やめて…見ないで…お願い…
はっ…
田中…悪いな まず先に俺が味見を…
ジュル
グチュッ
ジュポッ
くちゅっ
あっ…
ヌチュッ
ちゅぶっ
ぐちゅっ
はっ…
あうっ…
ぐちゅっ
ジュポッ
ジュルル
ジュルル
マネージャーいつもされてるク○ニと違うだろ!? 気持ちは分かるが声は抑え目にしてくれよな…
あっ…
はっ…
うまそうな音させやがって…神谷おまえってねちっこく攻めるタイプだろ!?
なんとでも言え…
グチュッ
ヌチュッ

あっ…はっ
ねえ…
どっちなの!?
どっちって？
あっ…

会社を辞めるって言い出した方よ…あっ…
はっ…
あっ…
どちらからともなく…自然にだな…
まさか入社して1年後こんな形で辞めるなんて思ってもみなかった…

そうだな…お互い同期の新入社員として仕事に燃えまくってたりっぱなSEになるってな…
はうっ…
ぴちゃっ
クチュッ
ちゅぶっ
ところが残業は多いし徹夜や長期の泊まり込み…休日出勤もあたりまえときてる…
はっ
あっ…ああっ…
ぴちゃっ
ぴちゃっ
ヌチュッ
ジュポッ
ジュルル
ぐちゅっ
クチュッ
ある程度の苦労は覚悟してたさ…でも実際…こんな割の合わない仕事だとは思ってもみなかった

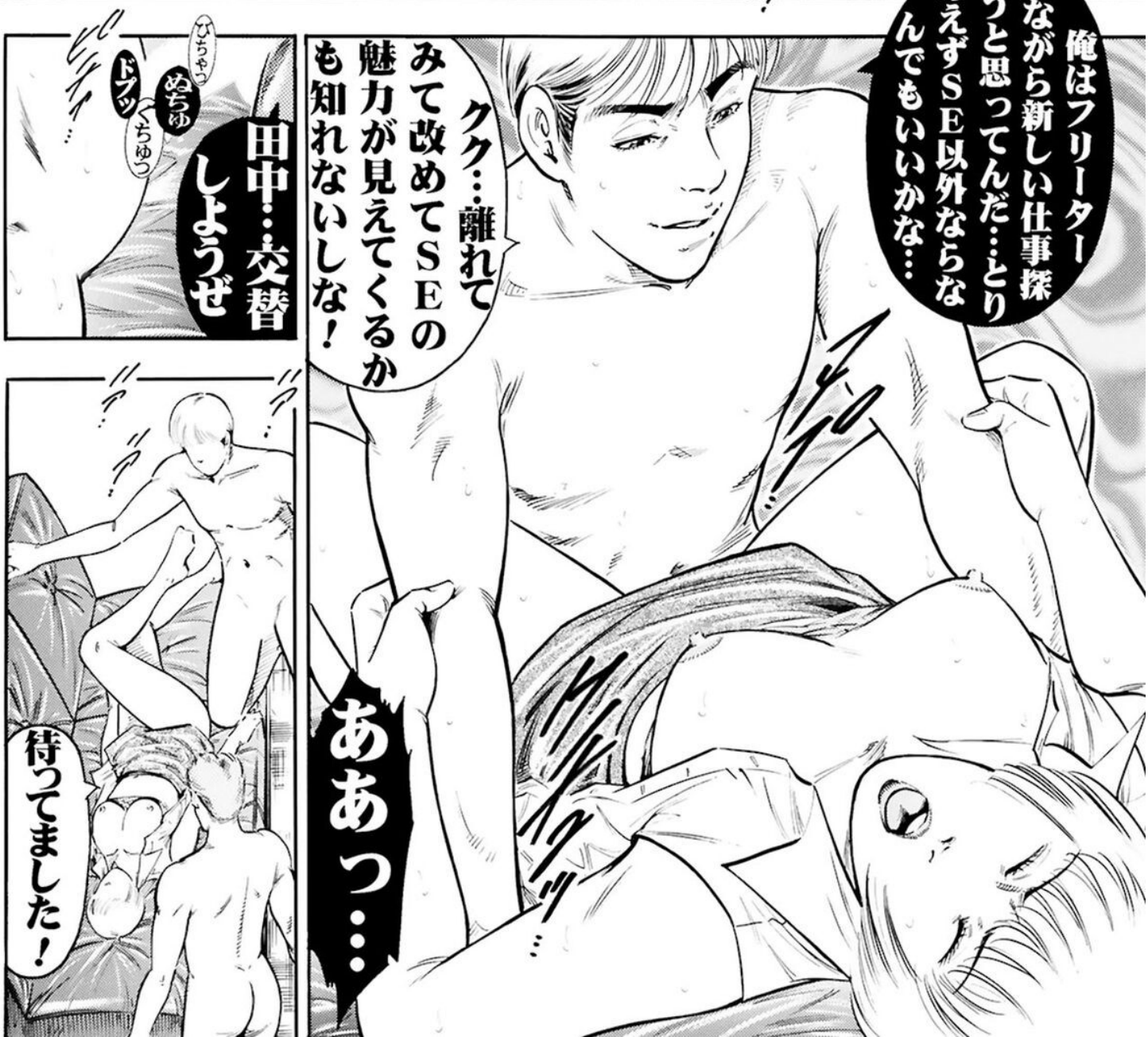
そのうえ…この業界はインターネットのおかげで目まぐるしい程技術が進歩しているだろ
あっ…
はっ…
新しい技術を身につけたと思ったらまた新しい技術が必要となる…

もういいかげんうんざりなんだよ！
ああっ…
はっ…
ヌチュッ
ジュポッ
グチュッ
ぬちゅ
グチュッ
あっ…
残念ね
あっ…
…はっ…あなた達もう少しタフだと思ってたのに…

あっ…
マネージャー
はっ…
うぐっ…
ぐちゅっ
ぐちゅっ
あっ…
ああっ…
ぴちゃっ

あっ…
もういいよ…
…その話は…
はっ…
ジュポッ
あうっ…
そうさ…どう
せ辞めるんだ…そ
れより俺さ…ホス
トになるんだ
今度店に遊びに
来てくれよ…マネージャ
ーなら特別サービス
しちゃうからさ！

はっ…
神谷君あなたもなの!?
あっ…
はっ…


俺はフリーターしながら新しい仕事探そうと思ってんだ…とりあえずSE以外ならなんでもいいかな…
ククッ…離れてみて改めてSEの魅力が見えてくるかも知れないしな！
ああっ…
田中…交替しようぜ
ぴちゃっ
ぬちゅ
くちゅっ
ドプッ
待ってました！

あっ…
ジュルル
ぴちゃっ
ちゅぶっ
ヌチュッ
ぐちゅっ
はうっ…
ちゅぶっ
ちゅぶっ
はっ…
仕事に追われ
忙しい日々を
あっ…
送っていた私
にとって…
あっ…

いい尻してる
ぜマネージャー…
たまんねえよ
これは
ああっ…
久しぶりの
SEXでした
はっ…
あっ…

俺も始めは神谷みたいなこと考えてたけど…
友人の紹介でホストの仕事あっさり決まっちまってさ
そして…そんな私に
あっ…
合法ドラッグは確実に効いていました
はっ…

ま一度きりの人生だし…なんでも体験してやろうと思ってね！
あっ…
ぬちゅ
ジュポッ
ぴちゃっ
ジュポッ
グチュッ
うぐっ…
あなた達にはもう…あっ…
はっ…
何を言っても無駄みたいね…

それは軽い愛撫だけで何度も絶頂に達したり
はっ…
あっ…
ククそう言えばマネージャーとこんなことしてるのも貴重な体験だよな！
あうっ…
挿入にいたっては全身を貫く快感で失神しそうなほどでした…

部下に犯される屈辱を快感が
はうっ…
ジュポッ
ぴちゃっ
クチュッ
ヌチュッ
グチュッ
陵駕していった
あっ…あぁっ…
そう…正直言って今…この瞬間…
うぐっ…
マネージャー最高にいいよぉ…
彼らより私の方が数十倍も欲していたのかもしれません

そろそろ…
効き目がなくなる頃だな

おいおい…もう出ちまったのか？
いや…休憩タイム…
じゃ…田中…
マネージャー押さえてくれ…こいつを飲ませないとな…
待って！もう…そんなのいらないわ！
あなた達の気持ちも分かったし…今夜の送別会3人で楽しみましょうよ！ね!?

さすがマネージャー飲み込みが早いね…
ガチャ…
ガチャ…
ガチャ…
あ…やべ…

おかしいな…
中からカギがかかってんのか!?

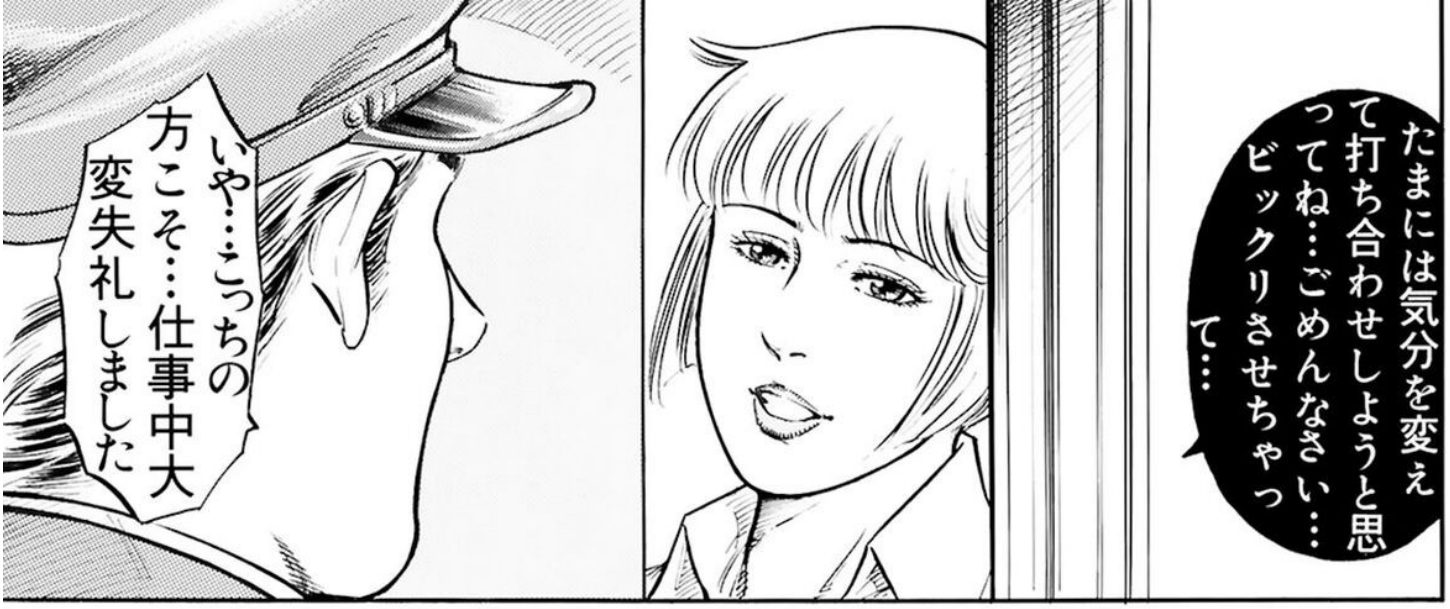
警備員か!?
どうする神谷!?

慌てんなって…マネージャーがなんとかしてくれるさ

彼らにはもう
そうね…ここは私に任せて…
見透かされていた…

ここで事を荒立たせたら

どうしたの!?
今まで築き上げてきた私のキャリアに
傷をつけてしまうということを…
あ…木村さんでしたかあの…ここはいつも使われないんで…ちょっと気になって…


たまには気分を変えて打ち合わせしようと思ってね…ごめんなさい…ビックリさせちゃって…
いや…こっちの方こそ…仕事中大変失礼しました

さ…これでゆっくり楽しめるわ…
そうね…名前だけでいいわ「由美子」…由美子って呼んで…
そしてそれは私が目標にしてきた海外赴任を逃すことにほかならなかった…
さすがマネージャーだね
そのマネージャーって呼ぶのは…今からよしましょ…

はっ…
今度は私を抱きたくて
性悪男にまで成り下がった2人の
男とことんまで楽しめば
はっ…
どっちの指が
気持ちいいんだ!?
由美子!?
クチュッ
ピチャッ
ジュポッ
ちゅぶっ
ジュルル
あうっ…
それで
あっ…
いい…
ダメ…
壊れちゃう!!
ぬちゅ
ジュルル
ぬちゅ
ジュポッ
クチュッ
ぬちゅ
ヌチュッ
クク…俺だよ
な!?由美子…
そう…上司と
部下の関係では
なく…男と女として…

はっ…
アルコールを一滴も飲まない送別会なんて…私初めてよ
あっ…
こんなに気持ちいい送別会なら何度だってやりたいよ…あっ…
ここもいい締まり具合だぜ…由美子…
はっ…
もっと…もっと突いてエ…あっ…
あっ…
このかわいい年下の他愛ない企て…
これこそが2人の鳩首協議の内容だったのです
それじゃ分からないよ…どっちを突いて欲しいんだ!?
あっ…はっ…それは…

―数カ月後―

会社を辞めたあの2人とはメールでつながっている
もちろん他のスタッフは知るはずもありません
そしてたまに3人で会っては
あの夜の送別会ごっこを楽しんでいるのです

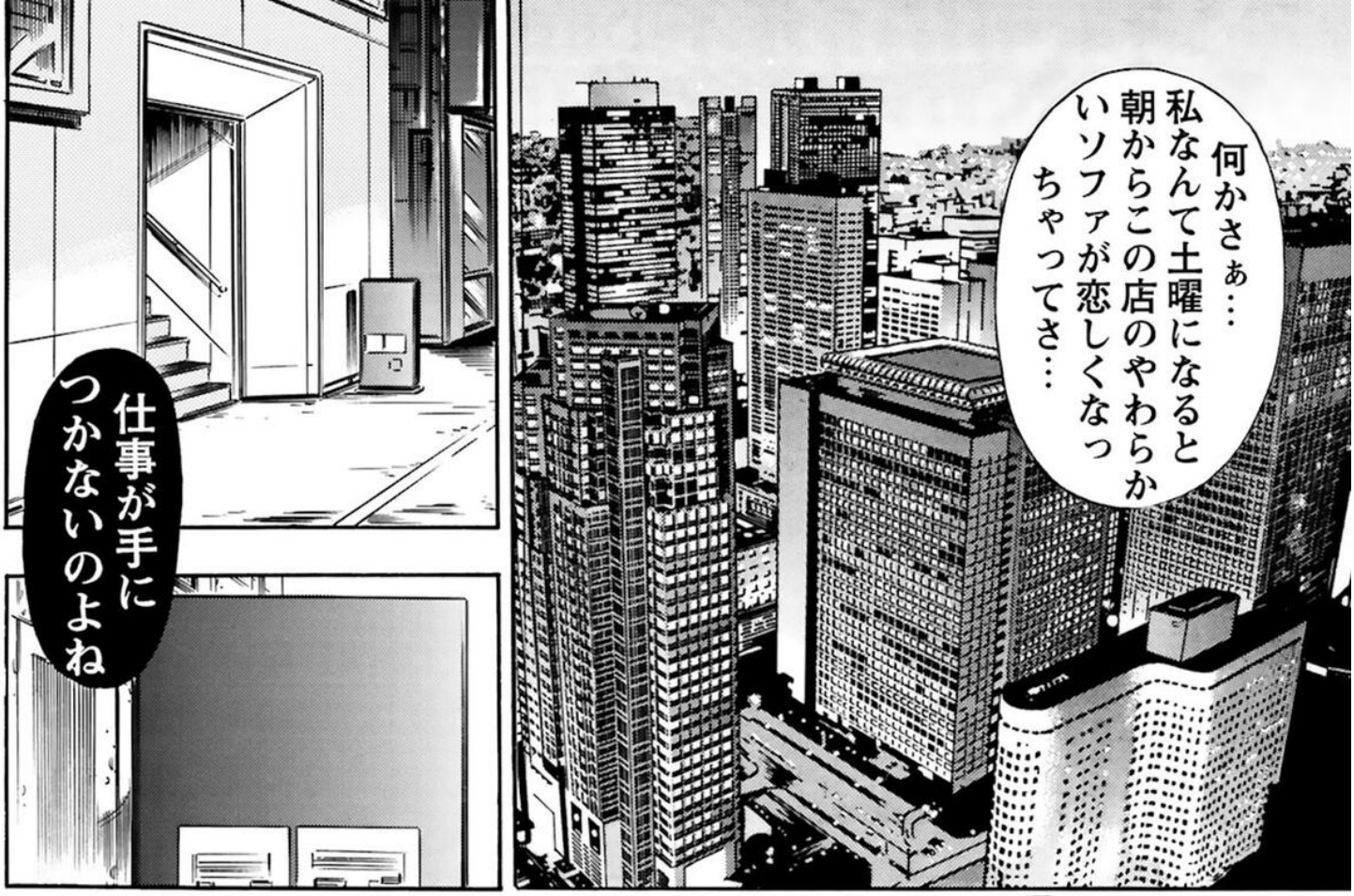
相変わらず忙しい私にとってその情事は今や仕事への活力になっていました

木村君…ちょっといいかね…海外赴任の話があるんだが…

そう…女一人今の社会で強(したた)かに生きていくにはやはり男のエキスが一番なのかもしれません

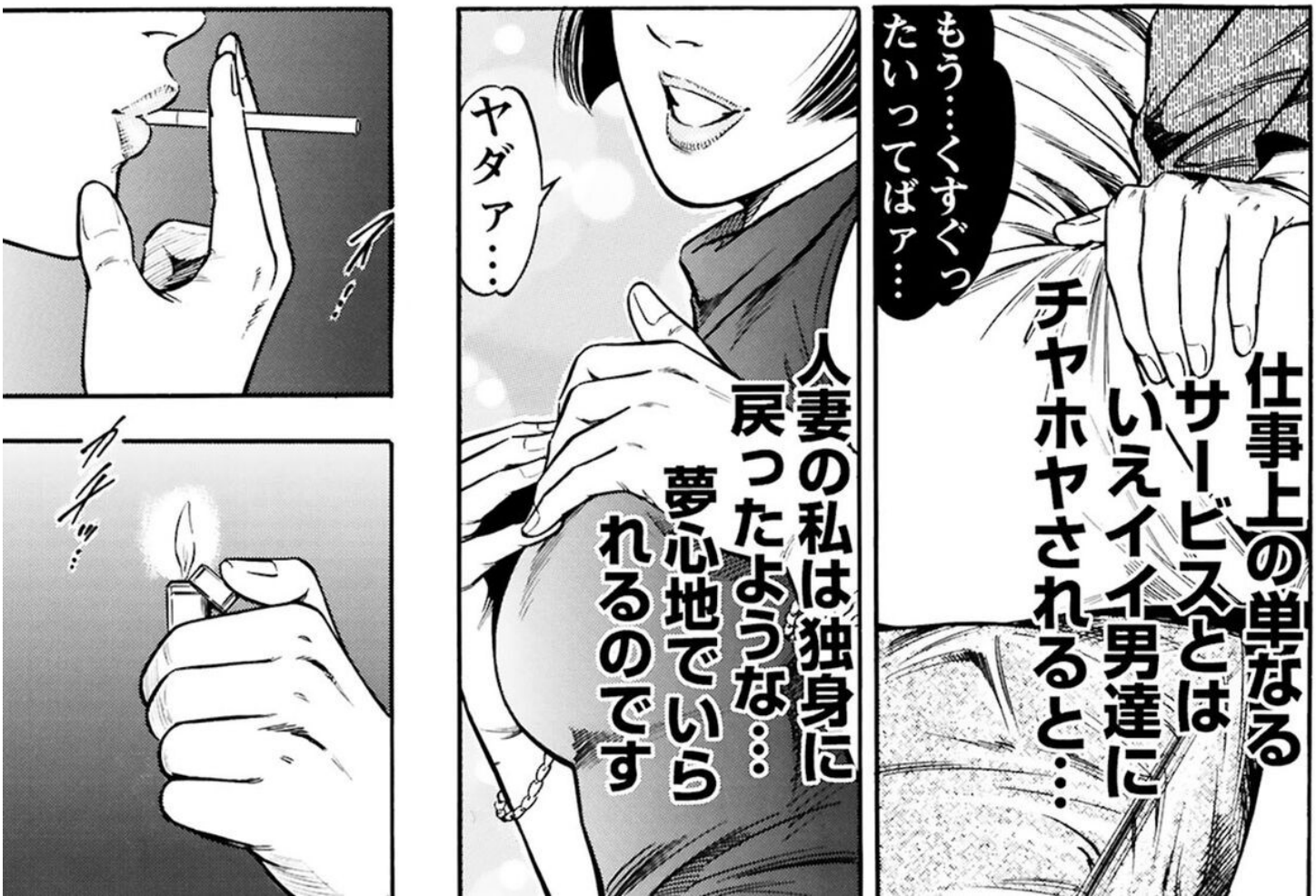
はい…喜んで伺います

人妻
ドS女王様から
真性M女に
格下げ


何かさぁ…
私なんて土曜になると
朝からこの店のやわらか
いソファが恋しくなっ
ちゃってさ…
仕事が手に
つかないのよね

今日だって
さ…うっかり会社
の書類電車に忘れ
ちゃってさ…
ゆかりったら…
つるっぱげの
上司にこっぴどく絞
られちゃったのよ
!?
そういえば
由美(ゆみ)さんの仕事っ
てなんだっけ？聞い
たことなかったよ
ね!?
私？私も
ゆかりと同じ
OLよ…
会社は
違うけどね

でも事務の方でしょ　ゆかりほどおもしろいネタってないのよねぇ…
私…実は…
人妻なんです
話してもつまんないわよ？
――ねえ…それよりつるっぱげって言えば…この間…
カラン…
ウソでしょ!?
夫のことで悩んでる私を見かねて友人が気晴らしさせるつもりで連れて来たのがこのボーイズバーだったのです
ほんとだってばァ…


仕事上の単なるサービスとはいえイイ男達にチヤホヤされると…
もう…くすぐったいってばァ…
人妻の私は独身に戻ったような…夢心地でいられるのです
ヤダァ…
カチッ…

そろそろ出る!?
フー…
…そうね…
ガタ…

じゃ…いっしょに行く?たまに4Pでもしよっか!?
由美ったら…まだ早いんじゃない?
前のあなたに完全復活ね…これって私のせいになるの!?
どうかしら…これって早いか遅いかの問題だったと思うわ…

寝た子を起こしちゃったわね
なんだか話の内容がぜんぜん見えなかったんだけど…
いーの見えなくて!

このボーイズバーは
私にとって砂漠の
オアシスだった…
この都会で唯一心を
リフレッシュさせ…
主婦から女に変われる場所…
HOTEL
はっ…
1週間ぶりの茂みだな
あっ…あっ…
週に1度の
夜遊びには
最適の店
なのです
もう茂みの奥が
濡れてますよ!?
由美さん…
はっ…

…この夜をずーっと待ってたのよ…1週間って…私には長すぎるくらいよ…
はっ…
あっ…
だったら…もっと店に来ればいいじゃない…
だって…ボーイズバーって高いんだもの私とゆかりみたいなOLはせいぜい週1回が限度なのよ…
風俗嬢の常連とは訳が違うのよ…
はっ…
あなたには他に貢いでる女性もいるんでしょ？
あっ…
私も貢いであげたいけど…あっ…
そんなこと…気にしなくてもいいよ
はっ…

夫への罪悪感？そんなもの…かけらもありませんでした
はっ…
あっ…
だって…こうなってしまったのもすべて夫のせいなのですから…
週に1度定期的に来てくれるだけで…由美さんの気持ちは十分過ぎるほど分かってるから…
クチュッ
ヌチュッ
ジュポッ
あうっ…
はっ…
あっ…
ああっ…
セックスレス？
そう…仕事…仕事ってほんと嫉妬するぐらい仕事のことばっかり考えてんのよ!?
私のことなんか同居人ぐらいしか思ってないのよ！

男遊びが派手だった由美が突然結婚したのにはビックリしたけど…
まさか…由美の口から「セックスレス」っていう言葉が出るなんて…2度ビックリね…じゃ…子供もまだ？
当然でしょ…することもしてないんだもの…
別に特別ほしいとも思わないけどね…
やっぱり由美には専業主婦は似合わないわね…
あ…そうだ！前から興味あったんだけど…
一人じゃなんだからいっしょに行ってみる!?
え!?何処!?なによォ…もったいぶってエ…
ぜったい由美には気晴らしになると思うよ！
あっ…
はっ…
ねえ…

先にいつもの準備するわね…
…そうだな…
ちょっと待っててね…
そして…その夫への不満を…
思いもかけないかたちで解消させることができたのです
お待たせ…
ﾉｯ…
やっぱりそのファッションは由美さんの曲線美をより引き立たせてるね…最高にいいよ
眺めてるだけでいきそうになる

私にSMプレイの女王様の真似事をさせたのが始まりでした
…どお？
いいよ…だんだん言葉嬲りも様になってきてるよ…
始めは恥ずかしかったけど
慣れてみると大声出すのってストレス解消にもってこいよね…
それは…ホストの彼が“M”（マゾヒスト）の気があり…
あっ…
私はあなたのオナペットじゃないんだよ!!
あたしを見てるだけで射精するですって!?

さあ…プレイ本番よ…今夜は覚悟なさい…
ああ…身震いがするよ…1週間…こうされるのを待ってたんだ…
はっ…
あっ…
いつ勃たせろと言った!?
んぐっ…
うっ…
私が許すまで勃たせんじゃないよ!!
あぁっ…

こうして“S”（サディスト）の快感が分かりかけてきた頃から…
苦痛に歪むホストの彼に私は夫の姿を重ねていたのです
あっ…
うぐっ…
はっ…
そして夫をムチでおもいっきり引っぱたく…
あっ…

いつまでも勃たせてると…
引きちぎるよ!!
はっ…
あぐっ…
ピチャッ
くちゅっ
あっ…
はっ…
これほど夫への不満を解消するものはありませんでした
あっ…あ…
早く小さくさせるんだよ！さあ…早く!!

そろそろ…
SMごっこは終わりにしましょ…
今夜は…もう…気が済んだわ
じゃ次は俺の番だ
あっ…
ピチャツ
ジュルル
ぴちゃっ
ぴちゃっ
はうっ…
はっ…
ムチの使い方…最高だったよ
ぬちゅ
ぴちゃっ
くちゅっ
ちゅぶっ
あっ…
あっ…
あぁっ…

私の夜の外出に夫はなにも言わない…
ジュルル…
ちゅぶっ
あっ…

はっ…
その夫の無関心な態度がよけい私の夜遊びに拍車をかけた…
由美さんががんばった分オレもがんばらなきゃな…
もっと…もっと…突いて…
あっ…
壊れるぐらい…あっ…ああっ…

こうなったのも…
全て夫のせい…
私は心の底から
そう思っていた…
あっ…
はうっ…
あの夜が…
…来るまでは…

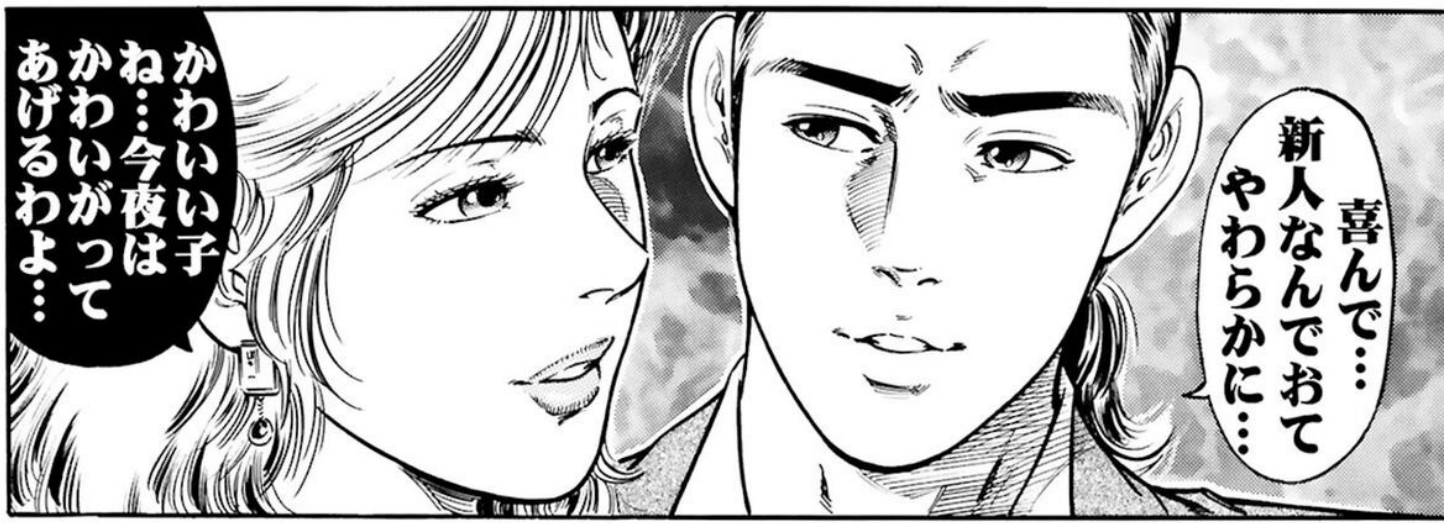
――翌週の土曜日――

店を辞めた!?
どういうこと!?
え!?聞いてないんですか!?てっきり由美さんへはあいつ連絡してると思ってた…
じゃ…詳しい事情は誰も知らないってこと!?
この歌舞伎町の界隈じゃよくある話だけど…まさか…あいつが…
由美…
私とのSMプレイのせい!?…でも…彼は喜んでた…私のせいなんかじゃ…

由美さん…今夜のところはこいつと遊んでやってもらえませんか？
――え!?
まだホストになって2週間なんですいたらないところがあったら遠慮なくおっしゃってください
かわいい子じゃない由美…あたしが変わったげようか!?

初めまして…山村尚之(やまむらなおゆき)って言います…
よろしく…さ…ここに座って…
カンパーイ!

それでさぁ…
ねえ…ホテル予約してるんだけど…キャンセルするのもったいないし…いっしょに行かない？


喜んで…新人なんでおてやわらかに…
かわいい子ね…今夜はかわいがってあげるわよ…

“私”の中に芽生えた“S”の本能を封じ込めることはできそうになかった…

HOTEL
そう…この際…相手は誰でもよかったのです…

シトシト…

ねえ…まだなの？
そんな…急かさないでくださいよ
大事なところはちゃーんと洗った方が…
ガシャ…
ガシャ…
ガシャ

由美さん待ってくれよ!!
ここじゃ狭いわねぇ!
痛てて…

あっ…
痛てーってさっきから…言ってんだろうが!?
キャッ…

なにすんのよ!!
それはこっちのセリフだよ!!
なんなんだよいきなり!?

なによ！そのなまいきな言い方！新人のホストが客にそんな口のきき方していいわけ!?
あんなことされたら誰だって怒るに決まってるだろうが!?客とかホストだとかもう関係ねえよ！
前の彼は怒らなかった…むしろ喜んでたわ！
そう…あの先輩…M男だったってわけか
あっ…
あのな…言っとくがホストがみんなM男と思ってんなら勘違いもいいとこだぜ!?
俺だってそうさ…引っぱたかれるよりは…
引っぱたく方が性に合ってる！
あぐっ…
今のはさっきのおかえしだ…
――ったく…辞めた先輩の代わりに新人のホストらしくなぐさめてやろうと思ったのに…

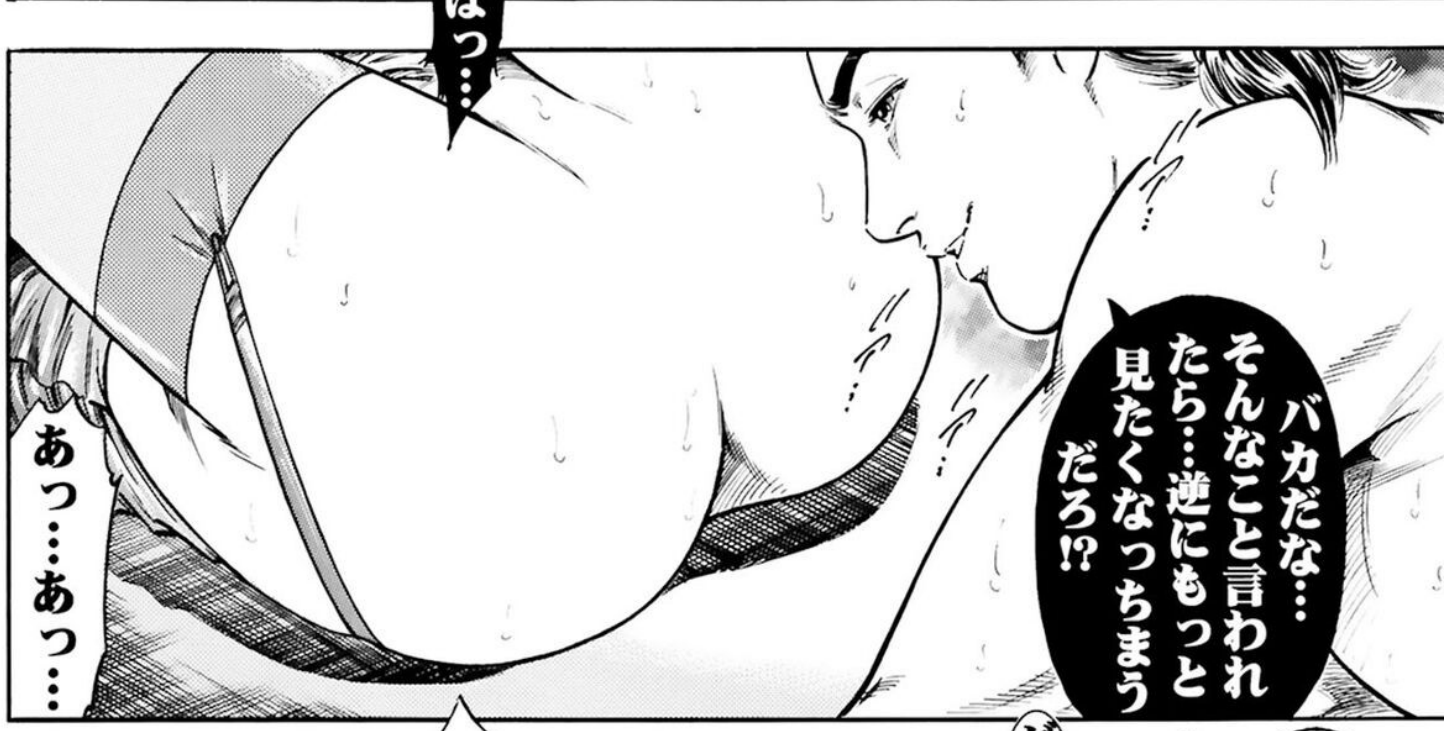
これじゃムードぶち壊しだろあんた
さあ尻を上げろ
なにすんのよ!?
いいから上げろ!!
わ…分かったわよ
今からあんたの好きなSMプレイを楽しませてやるよ!
ぐちゅっ
ぴちゃっ
グチュッ
ただしおまえは女王様じゃない…M女に格下げだ!!
あぁっ…

もっと尻を突き出せ!!そうだ!そのままだ!!
新人のホストだからってなめてるからこんな目に遭うんだぜ!?
あうっ…
言っとくが俺をマジで怒らせたらこんなもんじゃ済まねえぞ!!分かったか!!
はっ…
おい!聞いてんのか!?
ピチャッ
ジュポッ
ヌチュッ
くちゅっ
あっ…
分かったか分からねえのか!?どっちなんだ!?
分かったわ…私が…あっ……間違ってた…
ごめんなさい
ごめんなさい

こんなことされて感じてんだろ…マ○汁が溢れてるぜ!?
クチュッ
グチュッ
あっ…
うっ…
中はどうなってんだ!?
あっ…
クチュッ
ヌチュッ
ヌチュッ
ククッ…グジュグジュだな…
はっ…
はっ…
あっ…
あんたM女かもしれねえな…縛られたことはあんのか!?
ないわ…あっ…
じゃ…俺があんたにふさわしいSMプレイを教えてやるよ

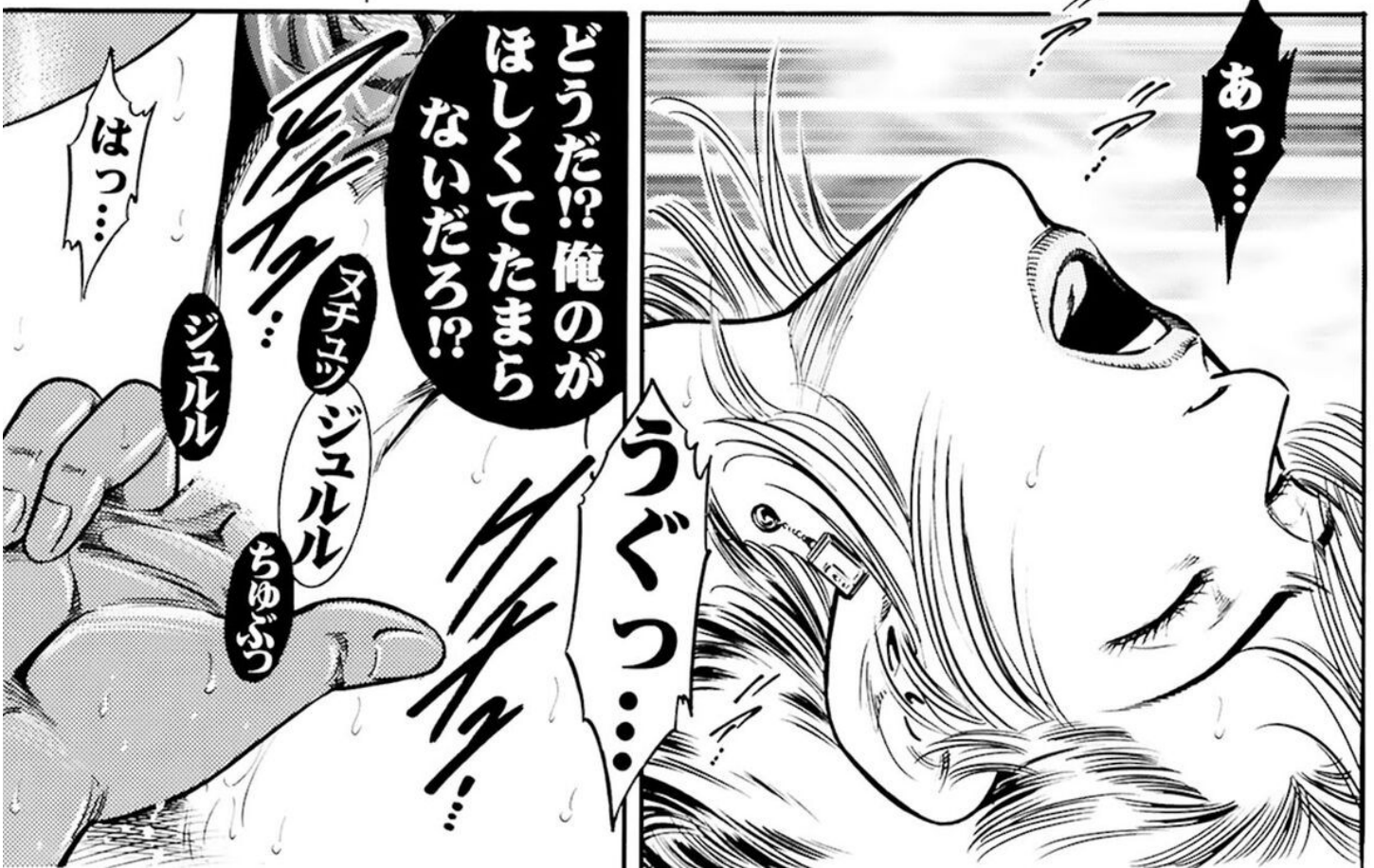
いいねぇ…
M女らしい格好だよ…
なんか…
俺までSMにハマりそうだよ
はっ…
あっ…
しかし…いい眺めだな…
尻の穴まで丸見えだぜ！

あっ…見ないで…すごく恥ずかしい…


はっ…
バカだな…そんなこと言われたら…逆にもっと見たくなっちまうだろ!?
あっ…あっ…

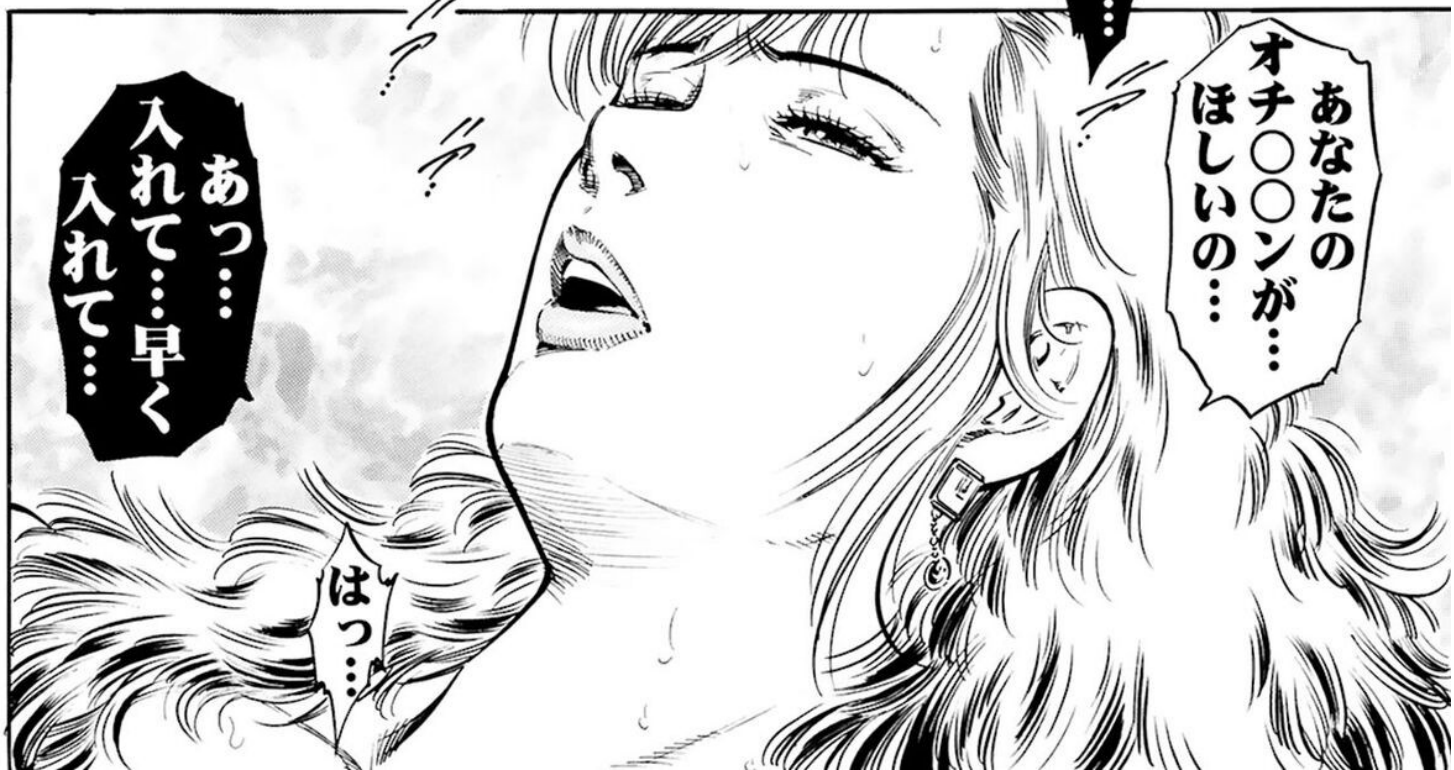
あっ…
ク○ト○スがプリプリしてやがる…
ちゅぶっ
ジュルル
グチュッ
ジュポッ
はうっ…
ちゅぶっ
クチュッ
ク…そーとー興奮してんだな由美ちゃん…
あふっ…
ジュルル
クチュッ
ぬちゅ
あっ…ダメ…

自由を奪われ…
あっ…あっ…
くちゅっ
ぴちゃっ
ドプッ
痴態を晒してる
はっ…
自分の姿に興奮していた…


あっ…
うぐっ…
どうだ!?俺のがほしくてたまらないだろ!?
ヌチュッ
ジュルル
ちゅぶっ
ジュルル
はっ…

は…はい…
あっ…
ぴちゃっ
ぴちゃっ
ジュポッ
もっとハッキリ言えよ…俺の何がほしいんだ!?

ちゃんと言わねえと今夜はおあずけにしちまうぞ!?
ちゅぶっ
くちゅっ
ジュポッ
はっ…
あなたのアレが…あっ…
ククッ…アレじゃ分かんねえだろ!?


あなたのオチ○○ンが…ほしいの…
はっ…
あっ…入れて…早く入れて…
はっ…

あぐっ…
今までこんなの体験したことなかった…
はっ…
どうだ!? あんたにとっちゃ…病み付きになりそうなプレイだろ!?
それは正直いって“S”の快感を
あっ…あっ…
ちゅぶっ
ジュルル
ぐちゅっ
超えるものだった…
はうっ…

え…何処へ行くの!?
ちょっとポラロイドカメラを買いにね…続きはそれからだ…
そして…私にとって砂漠のオアシスだったボーイズバーが…
な…

あんたとの初めての夜だろ…記念に恥ずかしい写真を撮りまくってやるよ…
一生抜け出せない砂地獄になっていた
それであんたは一生俺に逆らえなくなる 新人ホストの最初の客だしな…大事にしてやるぜ!

そう…これは…夫とのことを口実に自分の浮気を正当化していた報いなのかも
それだけは…しれません…
それだけはやめて…おねがい!

To Be Continued

優花先生の
次回の作品にご期待下さい。

携帯配信のアネ恋宣言も
是非ご覧になってお楽しみ下さい!

アネ恋♀宣言

実録性悪③
美人上司
媚薬を飲まされ
部下のＳＥＸドールに

優花

©優花／秋水社ORIGINAL